

令和6年度第1回北海道における障がい者の生涯学習の推進に向けた  
調査及び研究に係るワーキングチーム会議 会議録

1 日時 令和6年(2024年)8月5日(月) 10:00~11:00

2 方法 オンライン(Z o o m)

3 出欠席

(1) 出席 【構成員】宮崎氏、松井氏、吉成氏  
【オブザーバー】長岡課長補佐、吉田課長補佐  
【事務局】本田主幹、森主査、中村社会教育主事、増田主任

(2) 欠席 【オブザーバー】吉村課長補佐

4 議事

(1) 開会

本田主幹挨拶

(2) 説明

①北海道における障がい者の生涯学習の推進に向けた調査及び研究に係るワーキングチームについて

②先進地の視察について

③障がい者の生涯学習の普及啓発について

(3) 協議

テーマ「障がい者の生涯学習を特別なものにならないための取組について」

(松井氏) 障がい者の生涯学習を特別なものにならないという目標的なことよりも、なぜ特別なものとして捉えられてしまったのか、ということを考える必要がある。過去に生涯学習推進センターが研究として出された地域づくりに関するものは、まさに社会教育として地域づくりとしての生涯学習の必要性が分かるものだった。社会教育が抱えている課題について考えることが重要。

(吉成氏) 例えばパンを作る教室などに参加するにはハードルが高かったり、建物に入ることができなかったりと、生活の中で難しいところがある。障がいのある方が利用されることはあまり想定されていないと思う。一方で、イベント等に障がい者の方を歓迎するような文言をチラシに書くようなことも違うと思う。

(宮崎氏) 研究課題を設定する上で、方法論よりも地域にどのような問題が生じているのかを考える必要がある。学校における特別支援学級に限界がある中で、学校教育と社会教育の連続性についても考える必要があるし、社会教育としてどのように地域づくりを機能させていくかが問われている。ベーシックな社会教育活動ができていないところが多く、多くの住民のニーズを把

握ることができていないところにも課題がある。そういう意味では、長野県栄村ではしっかりと公民館活動や社会教育活動を行ってきたので、先進地として聞き取りをすることに意義があると感じている。

(4) 意見交流

【視察先について】

- ・長野県栄村方面⇒9月30日(月)～10月2日(水) 2泊3日
- ・関西方面⇒9月9日(月)～11日(水)のうち1泊2日
- ・道内⇒調整中

(5) 閉会